

独自のモニタリングシートを開発

福祉用具相談協

全国福祉用具専門相談員協会（山下一平会長）は3月23日、独自の「モニタリングシート（訪問確認書）」（試行版）を開発したことを発表した。

介護保険は福祉用具の導入で個別援助計画書の作成が義務付けられていないことから、同協会は、

用具活用のサービスの質の向上を目指し、独自に「福祉用具個別援助計画書・標準様式」を開発し昨年3月に公表した。現場での利用の広がりを受け、岩手県はこの標準様式を推奨している。

今回のモニタリングシートは、福祉用具専門相談員が利用者宅を訪問した際に用具の利用状況の確認や身体・生活状況等の変化などを把握するためのツールと位置付けられる。標準様式はPDCAサイクルのプラン（計画）で活用され、同シートはチェック（確認・評価）に活用できる。

同協会は22年度から実際に介護現場で活用してもらい、修正を図り、よりよいものを目指す。4月15日以降に、同協会のホームページからダウンロードできる予定だ（個別援助計画書は既にダウンロード可能）。

<http://www.zfssk.com>